特42
456

訂正
觀世流謠曲百番

龍虎

109

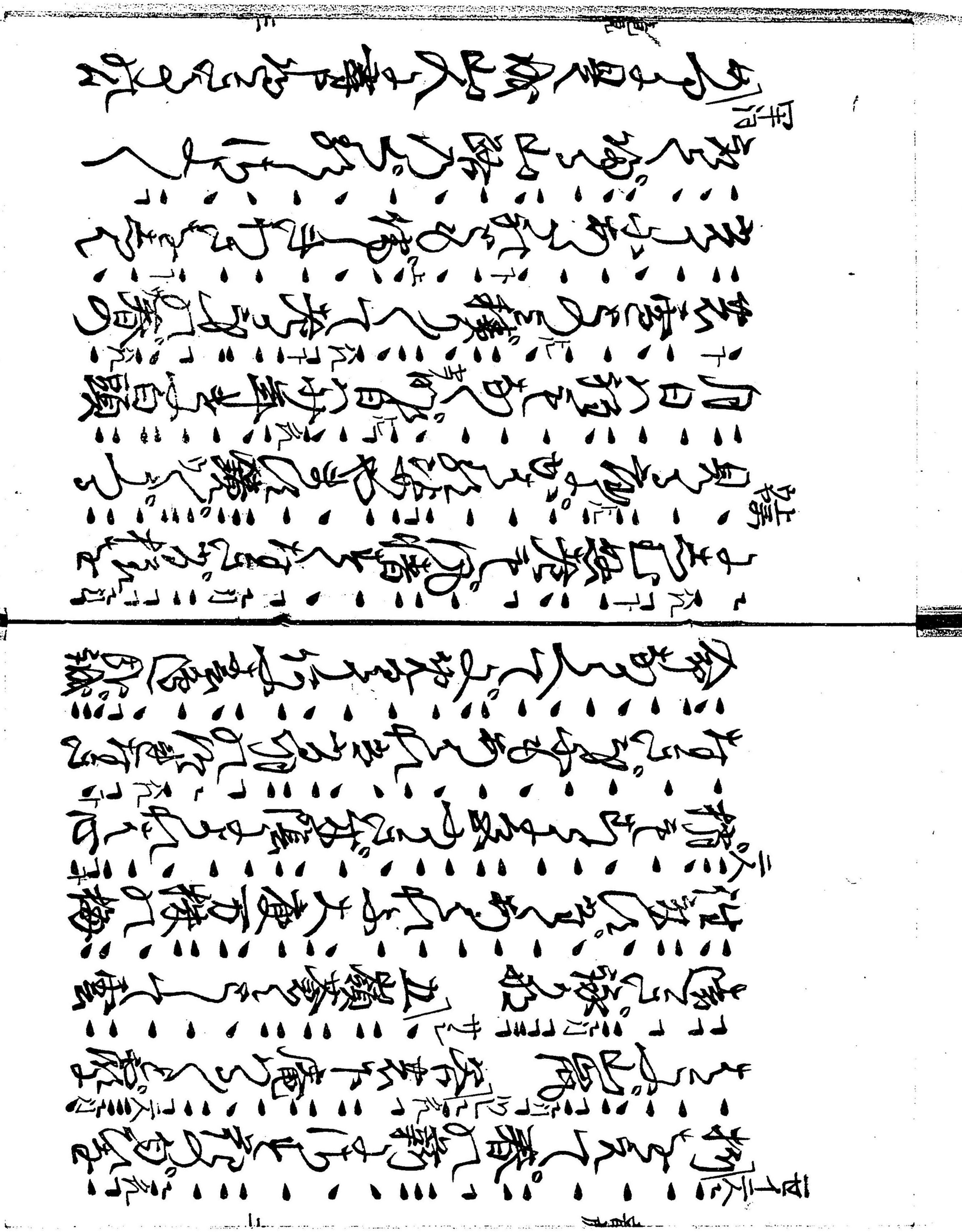
竜虎

法乃道ヲ興ル立ク流路遠キ
船ヲ浮ウ那 伊内 是ハ法出一見ス
僧ヲ我若年ノ時ヨリ弘国俗
祠ノ志ヲ求ルガ如ク
て又多ク学ル伝法流布ノ跡ヲ尋
ヘ唐渡天竺ヲ遊ル所多

内閣文庫

乃津より宿へ能便船ありて出る立
波唐住の夫乃原八十嶋のきて漕出
りく船路にも多くの紫を
跡よりそ行満つる雲に波霞
とうら海苔よ山てて浦もあくやや
唐土よりきりく荒磯やん遠と
里り伝非れか濃もやうきんうう

もん安穏よもん悪もあく波唐住てし
ぶ海よ可くを一見せやとなぶやや
江家浦を隔てく人煙遠く湖水天
ふ行きつくしてん遠なと泳ぐやる
を山中の村竹ぶ霞ものたる面白
ぶよ見かそ人つひを山人の多
びをを待る荷を寄ねやと春



シテ詞 さては日本の人と見え申さるゝ御姿なるが
様は是は入唐の為にわたり給ひたるか
ワキ さん候これは日本の僧にて候が
此国に渡り仏法流布の古跡を尋ね
且は又渡天の志有により遥々思ひ
立て候 シテ 抑渡天の御為や昔は
[illegible]

[illegible] 地 [illegible]
も遠き旅衣の シテ詞 立出給ふ日の
本の仏法あるを捨てゝ ワキ 何か
ある法の跡尋ね ツレ 昔語を今ここに
ワキ 聞も凄く シテ [illegible] 上 星の光を
行雲[illegible]
[illegible]胸の月[illegible] 下 [illegible]

行よりうき雲まのあらはるゝを露る
ぢうれいよく　うら面白き御答
社るゝぞまて壽や祝るゝのんだん之澤
たる山河の氣色行きも妙なる縁の
中にあはれなる霞める遠山ぞ向ひを
見えまた竹林に餓く雲のかゝり
風冷じく吹落くだる氣疎その

まつ紀是なる事にて候

シテ詞
さん候不審はそれ竹林の岩洞ハ
虎の栖みかにて候向ひにみえ候ふ山
よりは常に雲の捲立つて竜虎の戦ひ
あるなり

上歌
虎嘯ればすさまじく
ぢ吟すれば雲まつはり龍虎の爭ひ
そのめ挨を見る事のきりなさ

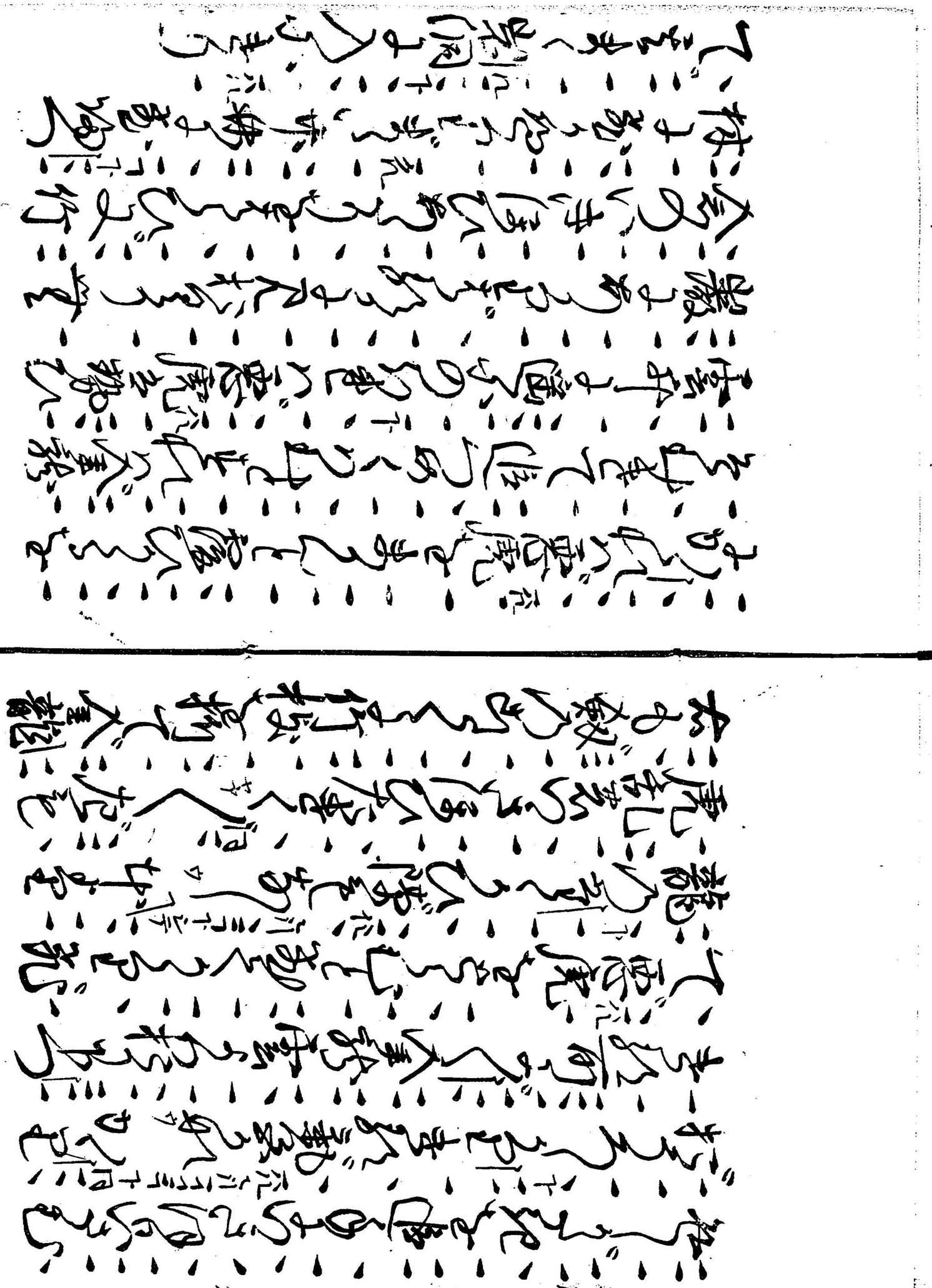
畜類なりとも
[illegible]
行ちぬ
蝎牛乃角
[illegible]墓
[illegible]
[illegible]人
[illegible]
[illegible]畜類
[illegible]
事も
[illegible]竜虎
[illegible]
[illegible]者
[illegible]威
[illegible]
[illegible]同
[illegible]竜虎
[illegible]
[illegible]竜
[illegible]
猛虎
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]畜
類
[illegible]
虎乃紋
[illegible]帝
[illegible]

ば天子乃御願を龍都と申し奉るを
竜かとも見るなれ付て扨虎も
偽物と信じ不審乃道を求め位都と
宣へとうぜもと仰せ出されて円喜
法乃道を求め羅漢よ仕へ
もらず当四臘乃ものうよも弱きと

実めと竜かとも見れ雲部乃虎嘯きへ
仏生と聞かもまれなるみ社のさ
なりきれ見るそれ国乃和睦安く
狩をも人倫乃祖つひ市乃
林のこなるいなる巌乃陰よ立ちて
ずと隠へとが白もかるみ
那やけんとゆ深乃影を庵ようち

鶯の谷の下道をくだりて、路を
けちてぞうきたるに、木の葉や
山人の袂へのまゝよ山路をかぐ竹林
を過ぎぬ。ふもとに
して、夜の月ぞ、ぶらりせう親と
きらく状の色よりも冷やかなり。
空より雲たちつゞく俄に降る雨

の音、鳴神稲妻天地を揮くがごとく
中よりそれ出るべき竜の物凄
金面めを肝をきゆるもものすごく
平なるに　かくして高き竹林を覆ひ
ぶ風吹きうなり林の岩
洞より竜の虎の頭出れば岩屋に
門よりと恐風を吹出し一方よりを吹



右之本者觀世太夫纖部以章句
眞本令版行畢

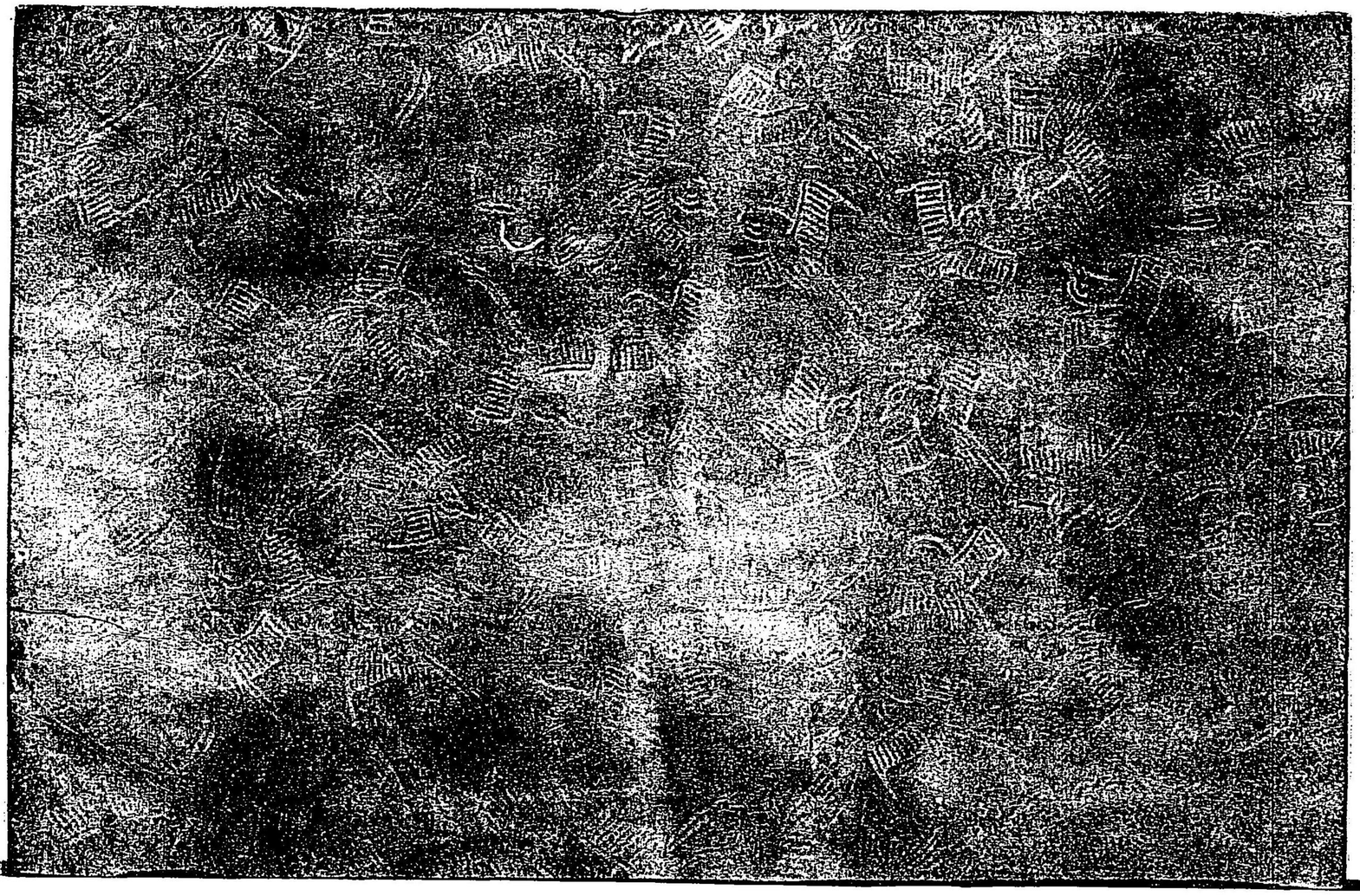
天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町旧
山本長兵衛

明治廿六年二月十七日印刷
明治廿六年二月同日訂正出版
明治廿六年三月廿九日別製本御届

定價三錢五厘

板權所有

訂正者　東京市麹町區飯田町四丁目壹番地
宮内省御用達
觀世清廉

發行者　京都市上京區二条通御幸町西一番戸
發兼印刷者　檜常之助